

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第64期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 株式会社ルネサスイーストン

【英訳名】 RENESAS EASTON Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 石井 仁

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田司町二丁目1番地

【電話番号】 03 6275 0600(代表)

【事務連絡者氏名】 財務本部長 中村 俊 昭

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田司町二丁目1番地

【電話番号】 03 6275 0600(代表)

【事務連絡者氏名】 財務本部長 中村 俊 昭

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第1四半期 連結累計期間	第64期 第1四半期 連結累計期間	第63期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	18,201	19,920	77,581
経常利益 (百万円)	107	600	1,239
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	35	427	831
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	350	494	1,129
純資産額 (百万円)	22,253	23,911	23,734
総資産額 (百万円)	30,798	34,705	35,326
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	1.36	16.20	31.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	72.3	68.9	67.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,258	721	2,589
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14	19	237
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,617	794	624
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,530	4,268	5,826

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期の経済環境は、米国・欧州では緩やかな成長が持続し、新興国は回復基調となり、中国でも輸出の回復等により持ち直しの動きが広がりつつあります。また、国内でも生産活動の回復、堅調な雇用・所得情勢を受けて、緩やかな回復が続いております。

半導体市場におきましては、2017年5月の世界半導体売上高は前年同月比22.6%増となり、10ヵ月連続で前年同月実績を上回り、市場の拡大が続いております。

このような環境の下、当第1四半期連結累計期間は、品目別売上高では集積回路はマイコンが自動車分野、ロジックICが産業分野を中心に増加し、前年同期比752百万円増（5.7%増）の14,050百万円、半導体素子はパワーデバイス、トランジスタが自動車・産業・民生分野等での増加により、同408百万円増（14.7%増）の3,184百万円、表示デバイスは民生分野での増加により、同81百万円増（19.7%増）の491百万円、その他は産業分野向けパーツが増加し、同477百万円増（27.8%増）の2,194百万円となりました。その結果、売上高は同1,719百万円増（9.4%増）の19,920百万円となりました。

損益面におきましては、営業利益は売上高の増加と売上総利益率の改善による売上総利益の増加及び販売費及び一般管理費の減少により、前年同期比426百万円増（411.4%増）の530百万円、経常利益は為替差損の減少等も寄与し、同492百万円増（456.9%増）の600百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同392百万円増（前年同期35百万円）の427百万円となりました。

(注) 当社グループは、「電子部品関連事業」のみの単一セグメントであります。

連結業績の推移

(単位：百万円)

	平成29年3月期				平成30年 3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
売上高	18,201	19,056	20,025	20,297	19,920
営業利益	103	339	402	322	530
経常利益	107	330	517	283	600

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較し以下のとおりとなりました。

(資産)

資産は、前連結会計年度末に比べて621百万円減少し34,705百万円となりました。

これは、主として商品及び製品が901百万円増加したものの、現金及び預金が1,557百万円減少したこと等によります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて798百万円減少し10,793百万円となりました。

これは、主として短期借入金金が502百万円減少し、買掛金が172百万円減少したこと等によります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて177百万円増加し23,911百万円となりました。

これは、主として為替換算調整勘定が44百万円減少したものの、利益剰余金が111百万円増加し、その他有価証券評価差額金が114百万円増加したこと等によります。

これにより自己資本比率は68.9%となり、時価ベースの自己資本比率は44.1%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,557百万円減少し、4,268百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は、721百万円(前年同期1,258百万円の増加)となりました。支出の主な内訳は、たな卸資産の増加930百万円、前渡金の増加191百万円、仕入債務の減少154百万円であり、収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益600百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、19百万円(前年同期14百万円の減少)となりました。支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出11百万円、有形固定資産の取得による支出6百万円、投資有価証券の取得による支出2百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、794百万円(前年同期1,617百万円の減少)となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の減少495百万円、配当金の支払額297百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に前事業年度の有価証券報告書に記載した「対処すべき課題」についての重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当第1四半期連結累計期間における「対処すべき課題」への取り組みは、新規取扱製品(ルネサスエレクトロニクス株式会社、株式会社日立製作所グループ会社以外からの仕入商品)のプロダクトマーケティング強化の為の新規事業推進本部の再編、営業販売力強化及び営業効率向上の為の第3営業本部の再編を図っております。また、当社版働き方改革「スマートワーク・ライフ」を始動し、社員のワークライフバランスを踏まえ、更なる効率経営を推進しております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,426,800	26,426,800	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	26,426,800	26,426,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年6月30日		26,426,800		5,042		3,652

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,404,000	264,040	
単元未満株式	普通株式 9,600		
発行済株式総数	26,426,800		
総株主の議決権		264,040	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が10,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数100個が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が55株含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)ルネサスイーストン	東京都千代田区神田司町 二丁目1番地	13,200		13,200	0.05
計		13,200		13,200	0.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,826	4,268
受取手形及び売掛金	14,502	14,482
電子記録債権	1,565	1,272
商品及び製品	8,645	9,546
仕掛品	3	14
繰延税金資産	165	68
その他	357	642
流動資産合計	31,067	30,297
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,029	1,029
減価償却累計額	755	760
建物及び構築物(純額)	274	269
工具、器具及び備品	181	183
減価償却累計額	149	152
工具、器具及び備品(純額)	32	31
土地	1,266	1,266
リース資産	19	19
減価償却累計額	9	10
リース資産(純額)	9	8
有形固定資産合計	1,583	1,576
無形固定資産		
ソフトウェア	120	109
その他	12	16
無形固定資産合計	133	125
投資その他の資産		
投資有価証券	1,983	2,150
繰延税金資産	12	12
その他	566	563
貸倒引当金	19	20
投資その他の資産合計	2,542	2,706
固定資産合計	4,258	4,408
資産合計	35,326	34,705

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,950	7,778
短期借入金	1,570	1,068
未払法人税等	321	125
賞与引当金	-	166
繰延税金負債	3	3
その他	1,054	912
流動負債合計	10,901	10,054
固定負債		
役員退職慰労引当金	0	0
退職給付に係る負債	364	363
繰延税金負債	116	167
その他	208	207
固定負債合計	690	738
負債合計	11,592	10,793
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,042	5,042
資本剰余金	5,001	5,001
利益剰余金	12,793	12,904
自己株式	3	3
株主資本合計	22,833	22,944
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	495	609
為替換算調整勘定	391	346
退職給付に係る調整累計額	13	10
その他の包括利益累計額合計	900	966
純資産合計	23,734	23,911
負債純資産合計	35,326	34,705

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	18,201	19,920
売上原価	16,448	17,860
売上総利益	1,753	2,060
販売費及び一般管理費	1,649	1,530
営業利益	103	530
営業外収益		
受取利息	5	2
受取配当金	13	24
受取派遣料	9	12
受取補償金	1	-
為替差益	-	10
その他	17	32
営業外収益合計	47	82
営業外費用		
支払利息	4	3
支払補償費	0	1
債権売却損	6	6
為替差損	30	-
その他	1	1
営業外費用合計	43	12
経常利益	107	600
特別損失		
貸倒引当金繰入額	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	107	600
法人税、住民税及び事業税	66	72
法人税等調整額	5	100
法人税等合計	71	172
四半期純利益	35	427
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	35	427
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61	114
為替換算調整勘定	352	44
退職給付に係る調整額	26	3
その他の包括利益合計	386	66
四半期包括利益	350	494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	350	494

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	107	600
減価償却費	60	22
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	163	193
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	37	5
支払利息	4	3
受取利息及び受取配当金	18	27
売上債権の増減額(は増加)	1,140	279
たな卸資産の増減額(は増加)	807	930
その他の流動資産の増減額(は増加)	21	285
仕入債務の増減額(は減少)	821	154
その他の流動負債の増減額(は減少)	105	167
その他	49	6
小計	1,287	517
利息及び配当金の受取額	18	27
利息の支払額	4	3
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	42	228
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,258	721
投資活動によるキャッシュ・フロー		
従業員に対する長期貸付金の回収による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	2	2
有形固定資産の取得による支出	2	6
無形固定資産の取得による支出	5	11
会員権の取得による支出	4	-
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	14	19
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,318	495
リース債務の返済による支出	1	1
配当金の支払額	298	297
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,617	794
現金及び現金同等物に係る換算差額	216	22
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	589	1,557
現金及び現金同等物の期首残高	4,119	5,826
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,530	4,268

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
現金及び預金	3,530百万円	4,268百万円
現金及び現金同等物	3,530百万円	4,268百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月16日 取締役会	普通株式	316	12	平成28年3月31日	平成28年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	316	12	平成29年3月31日	平成29年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、「電子部品関連事業」のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円36銭	16円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	35	427
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	35	427
普通株式の期中平均株式数(株)	26,413,565	26,413,545

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年5月15日開催の取締役会において、平成29年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	316百万円
1株当たりの金額	12円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年6月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月10日

株式会社ルネサスイーストン
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐々木 浩一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 秀満 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ルネサスイーストンの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ルネサスイーストン及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。